



Amir Tsarfati

2019年10月9日「キリストの来臨の約束はどこにあるのか」

—イエスの来臨の真理が、なぜ教会内部で嘲られ、踏みにじられるのか—

今晚のメッセージのタイトルは、『キリストの来臨の約束はどこにあるのか』です。これは多くの未信者たちや疑い深い信者たちが自問している、最も大きな疑問の一つです。ですが、その問題に取りかかる前に、まず、二年未満の内に以下のことが起こるとは、誰が信じたのでしょうか。アメリカ合衆国がイラン核合意から離脱し、イランの石油・金属産業に非常に厳しい制裁を課しました。また、大使館をエルサレムに移して、ゴラン高原におけるイスラエルの主権を認め、イラン革命防衛隊をテロ組織として認定しました。また、ムスリム同胞団もテロ組織として認定しました。神がこの政権を以て、この国に奇跡を起こされなかったら、これらのことは、どれひとつ起こり得なかったでしょう。ある特定の指揮官の人格に惚れ込む必要はありません。リーダーの政策を見なければなりません。そして、私たちは、このように物事を見るべきです。私にしてみれば、毎朝目を覚まして、このリストにますますいろいろなことが追加されていくのを見るのは、驚くばかりです。「驚く」では済まされません。私はビックリしていますし、感謝しています。私は、もしかしたらアメリカは、今日、このためにあるのではないかと思っています。全て、“この時のため”に。

先週、私はワシントンDCでいろいろな州の議員にお話をする機会がありました。スティーブも私と一緒にいました。興味深いことですが、ときに連邦議員たちは、自国の政権が下す決定の重要さや、それが世界全体に持つ重要性に気づいていないことがあるのですね。トランプ効果は、実際、地球を揺さぶっているんです。至る所で。インドネシアから中東全体、ヨーロッパまで。また、メキシコからカナダまで。アメリカでも。神がいかにかひとりの人間を用いることができるか、とても驚かされます。繰り返しますが、その人格は問題ではないんです。大事なのは、彼が何をしているのか、彼が何を支持しているのか、です。これは驚くべきことです。私は本当に驚嘆しています。けれど、「ところが」と言わなければなりません。あまりにも多くの人が、まだ疑っていて、何が何でも反対する人たちは、常にいるものです。

第2ペテロの3章3節から4節。

まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、次のように言うでしょう。『キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。』（第2ペテロ3章3節から4節）

ユダの手紙、1章だけですが、その17節から19節。

愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって語ったことばを思い起こしてください。彼らはあなたがたにこう言いました。『終わりの時には、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう、あざける者どもが現れる。』この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。
(ユダ1章17節から19節)

私たちは今、驚くべきことを見えています。神は、世界中で御業をなしておられ、いちじくの木が生き返りました。私たちは、イエス・キリストの時代以来、イスラエルがその地に戻っているのを見た唯一の世代です。私たちは、イエス・キリストの時代以来、エルサレムが再び我々の首都となったのを見た唯一の世代で

す。私たちは、イエス・キリストの時代以来、「私たちはそのことを望んでいます」「私たちはそのために祈っています」と言う必要のない唯一の世代です。そうではなく、私たちはかの日が近づいているのを見ているのです。私たちは自分たちのこの目で見ているんです。それなのに、私たちは今日、なおさらに、否定的な人たちに取り囲まれていて、彼らは言います。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか」

ここに約束があります。その約束はいつのことですか？何の約束ですか？約束をしたのは誰ですか？そして、なぜ？その約束を疑うのは誰ですか？このように、非常に多くの疑問があります。まず第一に、私たちは自問します。「よし、聖書には、終わりの日にそれが起こる、と書いてある」勘違いしないでください。「今この日に、イエスに会ったら信じるよ」と言う人たちが大勢います。ところが、当時、イエスに会っていた人々が信じなかったのです。信仰は、見えるものとは関係ありません。ヘブル1章1節から2節では、終わりの日がどういうものかという定義が、とても明確にされています。終わりの日は、その時すぐに、イエスの時代に始まりました。聖書は言います。

神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で、語られましたが、この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。（ヘブル1章1節から2節）

つまり、イエスが来られた時に、イエスによって、神は世に語られました。それが終わりの日の始まりでした。イエスのときまでは、預言者たちが救い主のことを語り、救い主がすぐに来られることを断言していました。シメオンというあの老人が、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいたことを、私たちは知っています。彼は、救い主が現れるのを忍耐して待っていました。人々はそのことを待ち望み、そのことを期待し、そのことを求めて祈っていました。するとイエスが現れ、そして終わりの日が始まったのです。なぜなら主は、いま全てのことを成就しておられるからです。そうして、終わりの日が始まりました。嘲笑し、疑う人々、つまり、あざける者どもとは誰のことでしょう？聖書のユダの手紙には、これらの人々、これら嘲笑する者たちは、「自分の不敬虔な欲望のままにふるまう」と書かれています。

第1ペテロ2章1節から3節。

ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、全ての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。

（第1ペテロ2章1節から3節）

主のいつくしみ深さを味わったことがない人々は、たぶん、主を本当には知っていないでしょう。自分では知っていると思っていますが、彼らは悪意を捨てません。それを食物にしています。彼らはごまかしを捨てません。それが彼らの手口です。彼らはそうやって活動するのです。彼らは面と向かってあなたに真実を言うことさえありません。彼らは偽善者（ヒポクリット）です。ちなみに、「ヒポクラテス」というギリシャ語は、マスク（覆面）のことです。みなさんがそれをご存じだったかどうか分かりませんが、当時の演劇界では、ショーの中で使用されていたマスクは、ヒポクラテスと呼ばれていました。ですから、偽善者（ヒポクラット）は、実際の自分とは異なる何かを身に着けている人々です。

ねたみ。彼らが「あなたの希望には根拠がない」とか、「その約束は真実ではない」と言うのは、だいたいにおいて彼らがねたんでいるからです。彼らはあなたのことを見ます。彼らの目に映るのは、希望を持った人々、大いなる期待を持っている人々が見えるのです。その期待は、聖さと義を引き出します。そして彼らは、その人たちの生き方を見ます。ねたみ。

悪口。だからこそ、私たちは、乳飲み子のように、純粋なみことばの乳を慕い求める必要があるのです。彼らがどのくらいみことばに接しているのか、私には分かりません。「それによって成長するためです。あな

たがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです」

箴言13章1節。

知恵のある子は父の訓戒に従い、あざける者は叱責を聞かない。（箴言13章1節）

これらの人々は、叱責に耳を傾ける気もありません。彼らにはもっと分別がありますから。彼らは何でも知っているんです。では彼らは、何のことであなたを嘲笑するのですか？ 彼らは言っています。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか？」「どこだ？見せてくれ」「俺は信じない」面白いですね。彼らは、キリストがその民のもとに来られるのを疑っているのです。彼らは基本的には、こう言っているのです。「ほら。はい、はい、確かに彼はいましたよ。そう、確かに彼はあれこれと言いましたよ。でも、状況を適切に踏まえて物事を考えなくてははいけませんよ。ほら、先祖たちが眠った時からこのかた、何事も同じままだよ。」彼らにとっては、たぶん、何事も同じままだでしょう。しかし新生し、御霊で満たされた信者にとっては、何事も同じままだではありません。同じままだではあり得ないのです。皆さんは、私の証をご覧になりましたね。もし何事も同じままだったら、私は今日、生きていないでしょう。彼らはキリストがその民のもとに来ることに疑念を抱きます。彼らは、約束を字義通りにとることに疑念を抱きます。彼らは、^{ひゆてき}比喩的な話し方をし始めます。面白いですね。私は、心の中で考えます。キリストのことを語っても、その復活を否定するなら、あなたの全信仰は、実際には死んでいます。でも、あなたがキリストのことを語り、その復活を否定しなくても、彼が私たちを迎えに来ることを否定するならば、キリストの復活には、何の意味があるのでしょうか？キリストが文字通りに物理的に戻って来られるという約束を疑っています。この地球にです。まだ地には足はつけられません。しかし、雲の中で私たちと会い、私たちがご自分と共にいるように、連れて行ってくださいなのです。

ヨハネ14章。

わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。（ヨハネ14章3節）

「あなたのいる所に、わたしも来て、共にいるためです」というものではありません。主は言われます。「わたしはあなた方を連れて行き、あなたがたを、わたしのもとに迎えます」それはヘブライ語でも、ギリシャ語でも非常に興味深い言葉で、「受け取る」とは、自分自身に引き受けるということです。興味深いことに、それらの人々は言っているのです。「ほら。世界はそのままだよ。私たちの先祖の時代から全てそのままだ。何も変わってはいない」根本的に、この人たちは、実際、ノアの日のように振る舞っている人たちと同じです。よく考えてみてください。ノアの時代には、何か大きなもののために備えをした人たちが、ごくわずかしかなかったことは誰もが知っています。残りの人たちがしたことは、何でしたか？聖書は、マタイ24章で、こう述べています。

人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のおようだからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついだりしていました。（マタイ24章37節から38節）

ここには、私たちがここから取り出されることが見事に描かれています。

そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。（マタイ24章39節）

彼らは、ノアの言うことを聞きたくなかったのです。彼らは、神がノアを通して人々に与えている警告に耳を傾けたくなかったのです。だから、このあざける者たちとまさに同じように、「大丈夫だよ、何もかもそのままだよ」なぜ、彼らはそうしているのだと思いますか？人々を眠らせて、彼らの希望を盗むためです。イエスの来臨の希望は、今日、信者が握りしめることのできる、最も重要なものです。そして、それは、サ

タンがあなたから一番盗みたいものなのです。そして、サタンは人々を使います。たいていは外部の人たち、ときには内部の人たちを使ってきます。しかし、サタンは、いつも決まってそれらのあざける者たちを連れてきて、必ずこう言わせるのです。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか？」彼らは神の御約束を疑います。彼らは、神の定められた時を疑います。そして、彼らは私たちの体の^{あがな}贖いを疑います。彼らは、こんなふうには言いません。「いや、私たちが救われているとか贖われているなんて、信じていないよ」彼らは、私たちにはまた別の贖いが待っていることを理解していません。私たちの魂の贖いではなく、私たちの体の贖いです。ローマ人への手紙8章が、そう告げています。私たちは、この体に慣れてしまわない方がいいんです。聖書によると、これは非常に^{いや}卑しい体です。ご存じかどうか知りませんが、20年前の自分の写真を顔の隣に置いてみてください。あなたは死に向かっています。20年前と比べたら、ひどいですね。好きなだけ化粧をして、一番腕利きの整形外科医にかかってみても、絶対に20年前のようにはなれません。教えてあげましょう。それは、これが卑しい体だからです。この体は腐敗の過程にあるのです。天国に入るためには、朽ちないものを着なければなりません。私たちは、この体では天国で悪臭を放つでしょう。天国に行くには、私たちは新しい体がなければなりません。それで、私たちには、キリストが来られるという約束があります。定められた時がある、という約束があります。そして、キリストが私たちを連れて行かれるという約束があります。私たちを取られるのです。このままの私たちを。私たちの体の贖いです。これらは敵の戦術なのです。

世界中で非常に多くの教会が、万人救済説を教えています。万人救済説、「誰もが救われる」ただそれだけです。「ひとりの人によって罪が世界に入り、別の人を通して、贖いと救いが世に来た。それだけ。すべての人が救われている」実際、Finished Work Eschatology (御業完了終末論) と呼ばれる神学があります。これは、私が今まで聞いた中でも、最もひどいもののひとつです。米国を起点に、短い動画を使って全世界を汚染しています。基本的には、紀元70年にすべてのことがすでに成就されたと言っているんです。よって、携挙が起こると思っただけはいけません。大患難が来ると思っただけはいけません。天国もないし、地球もない。何もなし。状況を見て、もし、これがすべてだったら、私はかなりがっかりします。そう言わざるを得ません。私には、牧師をしている大事な友人がいて、彼はフィリピンに住んでいます。ある日、ある人からEメールが私に届いて、この友人が、「すべての人は救われている」と信じることにしたそうだ、と言うのです。私は言いました。「そんなはずはない。私は、この友人のことを知っていますから。彼は素晴らしい友人なんです。どうしてそんなことを言うのですか？」そこで、私はその友人を夕食に招待しました。そして私は、自分の耳を疑いました。彼は、私に個人的な質問を3つしました。というより、いくつかは質問で、他のいくつかは、基本的に、彼は、こう言いました。「はあ。私には、もはやストレスや重荷はない。私はついに自由になったよ。」私が「どういう意味か？」と聞くと、彼は言いました。「私はもう、人に『救われなければならない』と説教しなくていいんだよ。すべての人が救われているんだから。朝、目ざめた時に、迷い出た人々への重荷を感じないんだ。」私は言いました。「先生、いま自分が何を言っているか分かっていますか？あなたは何百人もの人々をキリストに導いてきたのに。どうしたんですか？」すると、彼は言いました。「私はやっと真理を見つけたんだよ。私は、自分がキリストに導いた人々全員の所に行くと、謝罪しなければなりません。」ええ？私たちは、この世界に生きていながら、この、死にかかった世に重荷を感じずにいられるのでしょうか？そんなわけはないでしょう。

第2コリント11章16節から33節。

くり返して言いますが、だれも、私を愚かと思っただけではありません。しかし、もしそう思うなら、私を愚か者扱いにしないでください。私も少し誇ってみせます。これから話すことは、主によって話すのではなく、愚か者としてする思い切った自慢話です。多くの人々が肉によって誇っているのだから、私も誇ることにします。あなたがたは賢いのに、よくも喜んで愚か者たちをこらえています。事実、あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、だまされても、いばられても、顔をたたかれても、こらえているではありませんか。言うのも恥ずかしいことですが、言わなければなりません。私たちは弱かったのです。しかし、人があえて誇ろうとすることなら、――私は愚かになって言いますが、――私もあえて誇りましょう。彼らはヘブル人ですか。私もそうです。彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。彼らはアブラハムの子孫ですか。私もそ

うです。彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の苦勞は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盜賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。

このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょくか。もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないのをご存じです。ダマスコではアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの町を監視しました。そのとき私は、城壁の窓からかごでつり降るされ、彼の手をのがれました。(第2コリント11章16節から33節)

これこそが、重荷を負っていた人です。これこそが、人々に対する真の気遣いです。いったい、私たちはどうして朝起きて、「みんな救われている」と思えるのでしょうか。もう、何もしなくていい？ テレビをつけてみてください。新聞を開いてみてください。オンラインニュースを見てみてください。それより、街を歩き回ってみるといいでしょう。この世界は、どんどん狂ってきています。神に対する恐れのないさ、邪悪さ、残酷さ、すべてが分刻みで増大しています。それでも、信者の心には迷い出た人たちに対する重荷が全くないと言うのですか？約束の文字通りの意味を疑うのですか？

とても面白いですよ。彼はまた、私にこうも言ったのです。「アミール、携拳のことを教えるな。」彼は言いました。「携拳なんてないんだ！」もちろん、携拳なんてありません。あなたは、これがすべてだと思うのでしょうか。あなたは、イエスが弟子たちにされた約束の文字通りの意味を疑っている。イエスが迎えに来るといふ約束。ひとつ、言わせてもらいます。

今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。もしまだ見えていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。

(ローマ8章18節から25節)

パウロはこれらの言葉を、自分が一度も訪れたことのない教会に宛てて書いています。彼はこの手紙を書く以前には、一度もローマを訪れたことがありません。彼はローマ人に手紙を書いています。これは、パウロが教会に宛てて書いた中で、最も長い書簡です。彼がそれを書いたのは、彼が対処しなければならないような状況が何もないことを、知った上でのことでした。この人には、この人にこれをしないように言って、あの人には、この人にこれを言わないように言って…。パウロは、その人たちをだれも知らないのです。ローマ人への手紙は、全体が純粋な教義なのです。それは、私たちが持っていなければならない希望の教義です。私たちが、忍耐をもって待たなければならない、という事実についての教義。魂だけでなく、霊だけでなく、私たちの体が、この世界から贖われる日が来る、という事実についての教義です。

第1テサロニケ4章13節から18節。

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。(第1テサロニケ4章13節)

「みなさん、私たちの兄弟姉妹の中に死んでしまった人たちがいるとしても、彼らが信者であるなら、主よ、感謝します！なぜなら、非常に多くの人たちとは違って、みなさんのライフスタイルは、希望のないものではないのですから。」パウロはこう言います。

私たちはイエスが死んで、復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで、私たちは主のみことばのとおりになります。(第1テサロニケ4章15節から16節)

パウロがこのように言う時、「私たちは主のみことばのとおりになります。」要するに、パウロはこう言っているのです。「いいですか、私は神が語っておられるまをあなたがたに言っているのです。いいですか？それは私の意見でも、私の神学でもありません。神が言っていることに注目しなさい。」

彼は言います。

主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。ラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。(第1テサロニケ4章15節から18節)

毎日、あなたの国籍が、もうここにはないことを思いだしてください。あなたは、天の国籍を持っています。あなたが死ぬ時は、あなたは死ぬのではなくて、家に帰るのです。あなたの属する家に帰るのです。いいですか？ここでだれかが死ぬと、その人はただ眠りに落ちるのです。あなたの子どもがリビングルームで眠ってしまったら、あなたが彼を寝室に連れて行くようなものです。彼は目を覚ますと、自分の寝室にいます。私たちはこちらで眠りに落ち、あちらで目を覚ますのです。オイシイ話です。それが、私たちが互いに慰めあうべきための慰めなのです。これらの言葉を使うのです。あの否定的な人たちの言うことを聞いてはいけません。あのあざける者たちや、あざ笑う者たちに耳を傾けてはいけません。

私たちの信仰の中で最も嘲笑しやすいことは、携挙です。なぜかって？なぜなら、それは本当に奇想天外きそうてんがいに聞こえますから。考えてみてください。フッと私たちは消えてしまうのです。でもね、紅海が分かれたのは、本当にすごいことじゃありませんでしたか？なぜ、携挙だけ問題になるのですか？イエスは雲の中に引き上げられたのではないですか？エリヤはどうでしょう？あのびっくりするような劇的展開は？ヨルダン川がせき止められて、水が空まで柱のように盛り上がったのはどうですか？ほぼ150万人のイスラエル人を同時に渡らせたのです。なぜ、あなたは教会の携挙を受け入れられないのですか。他のすべてのことは受け入れられるのに。神は奇跡の神ではありませんか？あなたは、神に、ただ平凡な神であってほしいのです。世界もただ平凡であってほしい。これまでと何も変わることなく。これは、あなたを眠らせるようなものです。驚きますね。

ヨハネ14章1節から4節

あなたがたは心を騒がせてはいけません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。(ヨハネ14章1節から2節)

イエスは言われました。「いいですか。まず、わたしが行かなければならない。あなたのために、場所を備

えるのだ。いいですか？だからここにとどまりなさい。わたしは聖霊を送ります。彼はあなたを慰め、彼はあなたを守ります。彼はあなたとともにいる。いいですか？わたしはあなたを孤児にはしません。心配しなくていい。」 「だが…」 イエスは言われました。

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。（ヨハネ14章3節）

イエスは、今どこですか？御父の右です。

わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。わたしの行く道は、あなたがたも知っています。（ヨハネ14章3節から4節）

すると、トマスが聞きました。「私たちにその道を見せてください」 イエスは言われました。

わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。（ヨハネ14章6節）

ここに驚くべき約束があるのです。夕食の間にその牧師が言った、3つ目のこと。私は、もう少しで食べ物を喉に詰まらせて、死ぬところでした。「あなたのメッセージは人々を恐れさせ、自分たちの救いに疑問を抱かせる。あなたが教えた後、大勢の人たちが私に電話をしてきて話をしましたが、彼らは恐れています」へええ。それは知りませんでした。私は鏡を見ました。私はそんなに怖いですか？考えてみてください。私たちを怖がらせて隠れさせるのは、罪だけです。私はエデンの園でのことを思います。

創世記第3章。

そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。

そよ風の吹くころ。彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。『あなたは、どこにいるのか。』彼は答えた。『私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。』（創世記3章6節から10節）

最初の罪は反抗の結果でしたが、それは恥と恐怖を生み出し、そのため、彼らは隠れていたのです。だから、あなたが神の言葉を説いている時に、突然、誰かが恐れ始めたら、多くの場合、それは、その人の人生に何か問題があるからです。それで恐れがあるのです。間違えないでくださいよ。神と共に歩くことは、私たちに自信を与えてくれます。聖書はイザヤ書32章で、こう述べています。

義は平和をつくり出し、義はとこしえの平穏と信頼をもたらす。（イザヤ32章17節）

それでも不十分なら、第2テモテ1章7節です。

神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。（第2テモテ1章7節）

だから私たちに、はっきりと分かるのです。イエスが間もなく戻って来られることをあなたが説教する時

に、イエスがすぐにも来られるのを恐れている人がいれば、その人が恐れている理由はひとつしかありません。彼には準備ができていないのです。彼には準備ができていない。聖書の預言は怖がらせるためにあるのではなく、準備をさせるためです。それを覚えておかなければいけません。

聖書は、私たちが忍耐とはどういうものを学ぶことを望んでいます。私たちは神に「タイミング」を押しつけます。ひとつ私たちが忘れてはならないのは、神は遅れている、と人々は考えます。「すみません。私はまだここにいるんですけど？どうなっているんですか？」さて、ご存じですか？神は時を定めておられます。

ローマ15章4節から5節。

昔書かれたものは、すべて私たちが教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいませよう。（ローマ15章4節から5節）

マラキ書…イタリア人だったらマラチと呼んだりしますが、マラキ2章17節。

あなたがたは、あなたがたのことばで主を煩わした。しかし、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちは煩わしたのか。』『悪を行う者もみな主の心にならなっている。主は彼らを喜ばれる。さばきの神はどこにいるのか。』とあなたがたは言っているのだ。（マラキ2章17節）

彼らは尋ねています。彼らはバカにしています。彼らは疑っています。

詩篇3編1節から2節。

主よ。なんと私の敵がふえてきたことでしょうか。私に立ち向かう者が多くいます。多くの者が私のたましいのことを言っています。『彼に神の救いはない。』と。（詩篇3編1節から2節）

驚きです。ダビデは自分の仲間たちに攻撃されました。「おまえの神はどこにいるのか。彼の救いはどこにあるのか？」

ヘブル9章28節

キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。（ヘブル9章28節）

「来られる」です。「戻られる」ではありません。「来られる」です。その2つは同じではありません。彼は来て、私たちは取り去られます。キリストの物理的な地上再臨ではありません。

二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。（ヘブル9章28節）

ローマ8章は、私たちの体の贖い^{あがな}を説明しています。

第1コリント1章4節から9節。

私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストに

あって豊かな者とされたからです。それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者として、最後まで堅く保ってください。神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

(第1コリント1章4節から9節)

ローマ8章18節から22節。

今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。(ローマ8章18節)

仮に、イエスの再臨がじきに起こると信じることは逃避だと言う人がいるなら、「ああ、それは困難から簡単に逃げる方法だ」絶対に違います。その反対です。「今の時のいろいろの苦しみは、」今のこの時に、苦しみがあることを認めています。

将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。(ローマ8章18節から19節)

私たちは待たなければなりません。

ルカ第2章。シメオンです。なんと偉大な人でしょう。彼はエルサレムにいました。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいました。イスラエル人は、みんな神殿に行っていました。すべての人々が、いけにえを持って来ていました。すべての人々が、何事もそのままであるかのように振る舞っていました。彼らは皆、預言者の言葉をすべて無視していました。救世主がまもなく来られることへの、あらゆる期待を。彼らは皆、ダニエルの言ったこと、イザヤの言ったこと、エレミヤの言ったことを無視しました。彼らはみんな、まるで何も変わっていないかのように、日々、生活をしていました。でも、ひとりの男性がいました。年老いた人が…。

イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。(ルカ2章25節)

ほら、聖霊です。あなたに聖霊が宿っていれば、それが鍵となるのです。希望、期待、我慢強さ、忍耐、それら全部を持つために。

聖霊が彼の上にとどまっておられた。(ルカ2章25節)

そのころ、聖霊はあなたの内側には宿っていませんでした。あなたは聖霊をもって証印を押されていませんでした。聖霊はまだ、約束されたようには来ていませんでした。そうではなく、人々の上に降りて来たり、人々から去ったりしていました。だからダビデは言ったのです。「あなたの聖霊を、私から取り去らないでください」上に、です。聖書によると、それは彼の上に来ました。

聖霊が彼の上にとどまっておられた。また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。(ルカ2章25節から26節)

御霊は「あなたは死ぬ前に救世主を見るでしょう」と言いました。彼には、周りを見回して、「いやいや、何事もそのままだ」と言うこともできました。それも可能でした。でも、そうは言いませんでした。彼はイスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。聖書はこう述べています。

彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れられた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た。すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。『主よ。今こそあなたは、あなたのもしめを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です（ルカ2章27節から32節）』

その同じ御霊が…、聖霊は絶対に自己矛盾することを言いません。昨日も、今日も、いつまでも同じ神だから。同じ主です。その同じ聖霊が、今日、あなたに伝えています。キリストが、まさに戻って来られる。今、この瞬間にも。

ガラテヤ4章。

しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが、子としての身分を受けようになるためです。（ガラテヤ4章4節から5節）

「定めの時が来たので」神には定められた時があります。神は私たちのスケジュールに沿って働いてはられません。神は私たちが忍耐して、用意しておくことを求めておられます。あとのことは神に任せなさい。神が一番嫌うのは、あざ笑い、あざけて、「キリストの来臨の約束はどこにあるのか」と言うことです。なぜなら、神は、ちょうど定めの時に来て、ご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者とされた時と同じように、定めの時が来ると、神は御子を再び遣わされるからです。神がいかに働かれるかには、驚くべきものがあります。私は預言者ダニエルのことを考えています。ダニエルはとても幸せでした。ダニエルは、時（いつか）を知っていたからです。彼は季節（どんなときか）を知っていました。ダニエルは日数、月数、年数を数えました。そして、預言者エレミヤによって記され、語られた預言が、「完全に」成就されようとしていることを知っていました。彼は、彼らがエルサレムから追い出されてから70年が満ちようとしていたことを知っていました。彼は期待に満ちていました。彼は希望に満ちていました。すると、御使いが来て言います。「ダニエルよ。あなたに告げたいことがある。私にはどうしてか分からないが、神はあなたのことが本当に好きなんだ。ダニエルよ。あなたに教えたいことがあるんだ。あなたの祈りの初めから、あなたが口を開けた瞬間から、このことをあなたに伝えるよう、私に布告が与えられていた」言い換えれば、神が決断をされ、大天使ガブリエルは、すごい速さで飛んで、ダニエルの所に来て、伝えなければならなかったのです。「これが、その時だ」と。それから彼はダニエルに言いました。「ダニエルよ。聞け。あなたに教えよう。あなたが、エレミヤと70年に関して知っていることは、なんであれ、良い。いいことだ。しかし、私はあなたにもっと素晴らしい事を明らかにしようとしている。ペンを取って、巻物を持って、書き留めなさい」なぜなら、神は時を定められていますから。そして、その時が来ると、神は行動を起こされるのです。さて、神は私たちにその日やその時刻を教えてくださいません。なお、特定の時には、神が私たちに日数を教えてくださいません。神は、7年間の患難があることを教えてくださいません。前半が1260日で、残りの半分が1260日であると告げておられます。神は厳密に何ヶ月、何年、何日かを教えてくださいません。私たちはそれらのことを全部知っています。しかし、神はまたこうも言われます。「私があなたがたを迎えに来ることについては、だれもその日その時がいつであるかを知らない。わたしは、あなたに、いつでも用意してほしいから」

この「定めの時が来る」というのに、聞き覚えがありますか？ローマ11章は、私たちの次回のメッセージの題材になりますが、

兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、（ローマ11章25節）

定められた時があるのです。今度、それについてお話しします。まだ私たちがここにいたら、ですが。

黙示録5章1節から10節。

また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。（黙示録5章1節）

いいですか。ヨハネは天に引き上げられました。教会に関することを教会に語った後で、今度、第4章では、主は彼を天に呼び寄せて、「そこで何が起きているかを見なさい」と言われます。

また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、『巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者はだれか。』と言っているのを見た。しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。だから、私は激しく泣いていた。

（黙示録5章2節から4節）

ヨハネは泣きました。神の計画全体が、その巻き物に基づいていて、誰かがそれを開かなくてはなりません。希望です。そして彼は泣いています。

巻き物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったの、私は激しく泣いていた。すると、長老のひとりが、私に言った。『泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。』さらに私は、御座——そこには、四つの生き物がいる——と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があつた。その目は、全世界に遣わされた神の七つの御霊である。小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。（黙示録5章4節から7節）

小羊はふさわしい。

彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。彼らは、新しい歌を歌って言った。『あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。』（黙示録5章8節から10節）

私たちが天国に置かれて、キリストとともに戻って来て、地上を治めるという、すばらしい約束があるので。なのに、あなたは私に泣きわめけど仰りたいのですか？封印を解くのにふさわしい者がだれもないからと？ヨハネは泣きました。なぜなら、彼は理解していなかったからです。「どうなっているんだ？私は天国に来たら、すべてがすでに整っているのだと思った」すべてのことは整っています。でも、ヨハネよ。私たちはあなたのスケジュールに従って働いているのではないのだよ」ふさわしいお方は一人。その時が来れば、彼は巻き物を開き、七つの封印を解かれます。彼はすでに勝ったのですから。彼はすでに勝利しているのですから。彼こそが勝利を得られたお方です。彼はすでに勝利され、そして、彼は巻き物を開かれます。彼は、その七つの封印を解かれます。大患難は訪れます。大変な大惨事が起こります。これらのことは、黙示録の中で、ほぼ19章まで延々と示されています。私たちには、それがすべて見えています。しかし、私たちは、天にいます。私たちは王や祭司となるために、整えられることになっています。私たちが地上を治めるためです。

ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。（黙示録5章5節）

あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。

(黙示録5章9節から10節)

ピリピ2章5節から11節。

あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質を持って現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である。』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。(ピリピ2章5節から11節)

キリストは勝利しました。だから希望というのは、キリストが戻って来られるということです。では、私の言葉ではなく、主のみことばで締めくくります。

これらのことをあかしする方がこう言われる。『しかり。わたしはすぐに来る。』(黙示録22章20節)

アーメンですか？

「主イエスよ、来てください。」

ハレルヤ！

お父様、この御約束を本当にありがとうございます。約束された方が真実な方であることを感謝します。

お父様、私たちは聖霊を与えられて、しかるべき人々、^{こころざし}志を同じくする人々に囲まれ、あなたの御約束によって励まされていることを感謝します。私たちは忍耐を持って、辛抱強くあなたを待ちたいです。ユダ族から出た獅子は、勝利を得ておられますから。主はすでに勝利しました。そして時が来たら、主は私たちを迎えに来られます。その時まで、主は、私たちがまもなく起こるキリストの来臨の希望を、どこであっても、毎日、すべての人々に分かち合うことを求めておられます。また、あざける者たちに私たちの思いを混乱させず、「キリストの来臨の約束はどこにあるのか」と言わせないように。約束された方は、確かに、真実なお方です。

イエスの御名で祈ります。

アーメン。



👉 スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.10.12 (Sat)